

北穂高岳（滝谷登攀）山行報告書

（田中孝平登山人生 50 年記念登山）

（山城）：穂高連峰北穂高岳（滝谷）

（コース）：31 日：松浪岩入口～C 沢下降～第 4 尾根取付（スノーコル）～第 4 尾根登攀～涸沢岳
縦走路

1 日：ドーム縦走路（鎖場下～中央稜懸垂下降点へ）～中央稜取付～ドーム中央稜
登攀～涸沢岳縦走路

（日時）平成 27 年 7 月 29 日（水）21：00 自宅発～8 月 2 日（日）21：00 自宅着

（天候）7 月 30 日（木）午前 曇り一時小雨～午後 曇りから雨～夕刻 曇りから晴れ

7 月 31 日（金）快晴

8 月 1 日（土）快晴

8 月 2 日（日）快晴

（参加者）CL：田中孝平（ちば山の会）・神山寿子（元ちば山会員：千葉アルパインクラブ）

（山行タイム）

7 月 29 日（水）市原（自宅）21：00＝神山宅 21：30＝沢渡 01：30（仮眠）

7 月 30 日（木）沢渡（タクシー）5：30＝上高地 6：00 6：30 発～涸沢 13：00～南稜テン
場 17：00～北穂山頂 17：30（北穂小屋にてテント受付）

7 月 31 日（金）テン場 5：30～山頂（北穂小屋にてトイレタイム）5：45～松浪岩横入口～
滝谷 C 沢下降開始 6：10～第 4 尾根取付～A カンテから登攀開始 8：35～ツ
ルム頭 14：30～登攀終了 16：37～涸沢岳縦走路～北穂山頂 17：50

8 月 1 日（土）テン場 5：30～山頂（北穂小屋にてトイレタイム）～ドーム縦走路鎖場分岐
6：45（鎖場下から中央稜へのアプローチに行く）～懸垂下降点 7：00（懸垂）
～中央稜取付 7：20～中央稜登攀～登攀終了点 12：00～テン場 13：00（撤
収）～南稜を下山～涸沢テン場 16：15

8 月 2 日（日）涸沢 6：30～横尾 8：30～徳沢園～明神～上高地 11：50＝アルピコタクシー
12：45＝沢渡 13：15＝13：30 往路を帰途に付く。＝自宅着 21：00

（山行報告）「前段」

かねてより神山寿子さん（元会員：現）千葉アルパインクラブ会員）より北穂高岳滝谷の
登攀の希望を伝えられて居て、私自身も 15 歳夏に丹沢山に登って以来の登山歴 50 年に当る
節目の夏（誕生日 8/2 日）に、記念登攀を持つとも愛する穂高連峰それも滝谷登攀で行えるの
は、私自身にとってもこの上ない幸せと考えこの話をお受けした。

数か月前からトレーニングのカリキュラムを立てて、筋トレ、ボッカ強化、岩トレ等を重
ねて、来たが北穂南稜キャンプサイトまで登攀用具・テント・食糧の荷上は私にとって如何
に過去に何度も熟したことと言え、大変に辛いものであった。

相棒の神ちゃんがテント・ロープ 1 本を背負い必死の形相で重荷に耐えているのを見て私
も自らに鞭を打ちながら雨の中でキャンプサイトに到達できた、荷を置くとすぐに北穂山頂
を越え北穂小屋にキャンプ届けと水を購入して雨上がりのテン場で夕食と成るが、神ちゃん
は、疲労のせい、あまり食欲が無い様だ、軽く一杯と軽い食事で就寝となる。

いよいよ明日から2日間の50周年記念登攀「鳥も通わぬ滝谷」に入る事と成る。

「記録本文」

【7/29】21時に自宅を出発し神山宅にて、神ちゃんを乗せて沢渡へ向かう。深夜に沢渡駐車場に着き車内仮眠にて朝を待つことに。

【7/30】朝5:30に友人であるアルピコタクシーの細川氏に迎えを依頼していたので、川上商店前



【ボッカ中の神ちゃん：涸沢】



【登りボッカ中の私】

で乗りこみ1月以来の上高地へ入る。登山届は事前に「コンパス」宛てに届けて有り長野・岐阜の両県警はコンパスと協定が有るため登山口の届は不要となる。

身支度を整え大よその所要時間9時間を分割して9分に1を行くか！と自らと神ちゃんに言い聞かせスタートするが、やはり登攀用具入りザックは重いすぐに後悔が出だすことは言う間でも無い、ひたすら歩き徳沢にて帰りはアイスクリームだねと誓い横尾から涸沢を目指して小雨交じりの中を屏風岩を通過中にヘリのホバリングが頭上で続くが霧の為何も見えない。(下山後に屏風を登攀の60才代2名が事故を起して救助ヘリだった様だ。)

涸沢はキャンプ指定地に雪が張り出して居て、テントが雪の上や周辺の草地・石コロ地面に設営され何時もと違う涸沢を見た。涸沢小屋で大休憩の後に最後の難題7/9~9/9の南稜の登りに挑む。喘ぎながら1歩また1歩と高度を上げて梯子場を越え、南稜の肩へ急登をして行く神ちゃんは私以上にテントの重みが有るのか？スピードが落ちてきた、夕刻近いのと小屋でテント届と水の調達の為、私は疲れた足だが先を急ぐ、テン場は1~2張りのテントで好きな場所にザックをデポし、水容器を持ち小屋まで一登りを行う。

(ここは槍側から小屋経由でテント届をして場所が指定される事がありダブリ防止の為、涸沢側の場合は荷物を置いた状態で小屋に行き届出時に位置番号を言い、空を確認してから設営をしたい。)

水を購入とビール1缶を買い戻ると神ちゃんが着いて居た、テントを設営しながら月が満月に近いのを見て明日は満月かな？と話しながら月の明かりに浮き出す雲海を肴に軽いお酒と軽食で夕食を済ませ明日に備えて就寝した。

【7/31】朝起きると快晴であり穂高の山々や常念から富士まで見渡せる。食事をしっかりと、水を私は1L、神ちゃんは0, 5Lを持ち(私の心中に神ちゃん少ないかも？と思うが言い忘れ後に此れが神ちゃんを苦しめることになる。)小屋で用足しをして山頂で記念写真の後に松浪岩の横から滝谷C沢上部に入る。



《奈落の底を思わせるガレ沢を時にはロープを使い下部まで慎重に降りて行く。》
2時間30分を要す。

途中の枯滝を2か所程、懸垂下降を行い雪渓の残る下部に達したら、ピッケルで雪渓にステップを切り横断をして4尾根下部にある1坪ほどのスノーコルへ僅かな踏み跡を辿り達する。



右斜め上、くの字のへこみがスノーコル



準備OKの神ちゃん[行くよ]

4尾根下部の登攀は岩と草付(ハイ松帯)の交互になる緩いフェース・リッジから A カンテ〜 B カンテと登り、C カンテに達するここはナイフェッチで気持ちの良いクライミングが出来る。カンテを抜けるとツルムの頭に向かいクライミング要素が増ってきて、ガリーからピナクルを越え、フェース上部を大胆に超えるとツルムの頭に達する。



登攀中の神ちゃんポーズ



映画の世界の様なポーズ

ツルム頭からは懸垂下降でコルまで一気に下降して上部の核心部へとつながる。コルからは傾斜のキツイがホールドスタンスの程よいフェースからチームニーへ繋がって行く、チームニーは足1本が入るがザックが邪魔で外側に落ちそうになるのを溝の内部にあるホールドで支え上にずり上がるとテラスとなり抜けられる。



壁に延びるダブルロープ



核心に向かい

チームニーを終わると最後と成る核心ピッチのカンテからフェースと成るが、フェース上部に核心部があり、被り気味を抜けるのにバランスが取れなく苦しいが、我慢して上に手を伸ばすと、支点があり、これにカラビナを掛けロープを通すと思いきり体が伸ばせられ抜けることが、出来てピッチが終了する。ここから上は階段状を1ピッチで登攀が終了となる。潤沢岳との縦走路まで20~30分ほどで登山道にたどり着く、此处からは北穂まで約1時間で、テン場に戻る。



登攀終了の私



終了でほほ笑む神ちゃん



前穂をバックにヤッター



山頂で元会員のHさんと偶然再会

まずは1日目の祝杯を挙げるため小屋に向かうが、神ちゃんは水を0, 5Lだったので(私の水を共に別けたが)水分不足と緊張が緩んだので小屋までに倍の時間を要すことになった。小屋で生ビールを頂いて夕暮れの槍を写真に撮って居ると偶然に立ったのが元会員のH君で、顔を見合わせ共にびっくりであった。彼は1日にクラック尾根、2日に中央稜を行き下山との予定を話していた。我々と1日違いの入山下山である。しばらく歓談して互いの検討を祈り、一時の祝宴を共にした。

【8/1】朝の食事をしっかりととり、今日は比較的短いドーム中央稜に向かう。小屋で用足しの後にドームを潤沢側から巻いて鎖場を過ぎたところから右の中央稜の下に回り込むようにトラバースをしながら下降する事20~30分位でリングの付いた下降支点に着き、20m強の懸垂下降で下のガレ場に降りる事ができる。ここから左の中央稜の端部に向かい40mほど登り、回り込むと上部に立派なチームニーを持つ中央稜の取付である。ちょうど同じ時間帯に九州の2人パーティが居て九州の岩場の話で盛り上がった。(リーダーの男性は私と同年代であった。)



縦走路
鎖場下
から左
へ

1 ピッチ目の下部はチムニーには入らず左の壁を登り上部は入り過ぎない程度にチムニー内部の支点到カラビナを掛けてから外に乗りだし左から壁を乗り越えて上部に抜ける。この時にチムニーに入り過ぎると体が抜けなくなり、冷や汗をかく事に成る。また出過ぎると、落ちそうで怖い為に微妙な登攀をさせられる。



下降点へのアプローチ道



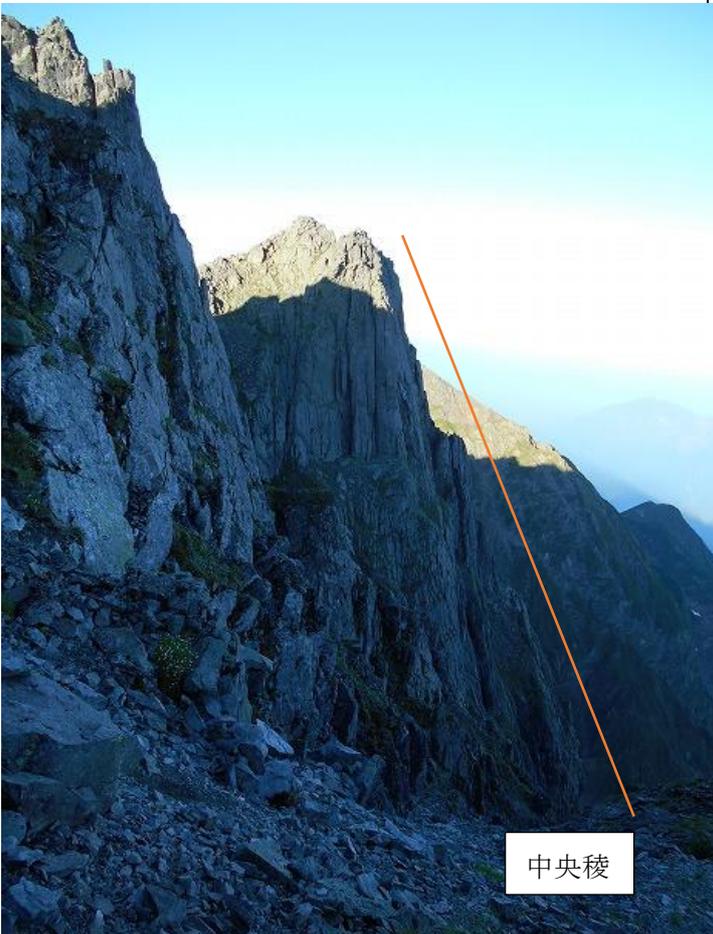
懸垂支点



下降中の神ちゃん

2 ピッチ目からはフェースから凹角へ続き容易な階段状を越え、再びフェースから凹角状と続くが此処の上部で左ルートと右ルートに別れ我々は左側(岩塔状：ピナクルのフェース越え)を選んで登るが最後の岩塔状のフェースはかぶり気味で私は無理と判断して交代し神ちゃんは、あっさりと越えた。(ウーン見事とうなずく私であった。)

岩塔の頭からは巾 70 cmほどの空間跨ぎで最終ピッチのビレー一点にたどり着く。(尚、九州のパーティは右に行く) 最終ピッチは核心部で上部のフェースを回り込む時に、微妙なバランスが必要で怖い所を超えると終了点に達する。



中央稜

ロープを伸ばす神ちゃん



登攀を終えてホッ。

完投ヤッタね。

ドームは昨日の4尾根より北穂側に近く、20分位のアプローチを辿り縦走路に出られる。



(アプローチから縦走路に)

ドームと南峰の間の縦走路を辿り南稜との分岐からテン場に戻るとすぐにテント撤収をして再び重い荷物を背負い、涸沢まで2~3時間の下山を行い、私の大好きな涸沢カールにて私の山旅50年の祝いと今回の成功と神ちゃんの◎◎オの祝いを兼ねてヒュッテのおでんとラーメン・生ビールとウィスキーでの祝宴となった。



南稜からの涸沢カールと前穂北尾根



50年目の山旅（穂高の稜線にて）

カンパニー涸沢ヒュッテにて



ゴアテント



モルゲンロートの涸沢にて



共に祝ってくれたパートナー

【8/2】誕生日の朝

モルゲンロートに輝く穂高連峰に包まれ私は満 65 才を迎えた、テントの外は金色に山々が輝き、明け方から特別な感情が湧いてきた、かつての仲間と過ごした事、幾百度と通った穂高涸沢に胸が熱くなり私は目が冴えてウトウトの中で起床をした。神ちゃんの「おめでとう」の言葉で山旅 50 年が過ぎたのを実感した。

今日は徳沢園でソフトクリーム・上高地の五千尺ホテルのコーヒーにケーキを目指して軽い食事の後でテントを撤収して三度の重荷を背負い 5 時間の下山をした。

言うまでも無く、ソフトもケーキもコーヒーも大変に美味しい忘れられない味となった。



穂高とお別れ、ふり返るとモルゲンロート



さらば穂高さらば涸沢さらば滝谷また来る日まで



上高地
かつば橋にて



焼岳をバックに



私の持つとも愛する山（穂高連峰）



ケーキとアイスコーヒーで祝杯



屏風岩(上)と明神岳(左)



憧れて穂高の峰の初雪に高峰に一人君がたたずむ。(初穂高あれから 48 年)

神山さん有難う。過去の山仲間有難う。今の山仲間これからも宜しくお願いします。ありがとう。